

オリエンタルエアブリッジ株式会社所属ボンバルディア式DHC-8-402型
JA845Aの航空事故調査について
(経過報告)

令和3年9月30日
運輸安全委員会（航空部会）

運輸安全委員会は、令和2年10月23日、オリエンタルエアブリッジ株式会社所属ボンバルディア式DHC-8-402型JA845Aが、福江空港へ着陸した際、機体後部下面を滑走路へ接触させ、機体を損傷した航空事故について、令和2年10月から原因を究明するための調査を進めてきたところであるが、原因の分析及び再発防止策の検討のために、さらに一定の時間を要する状況である。このため、本件調査については、本事故発生日から一年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第25条第4項の規定に基づき、以下のとおり本調査の経過を報告する。

なお、本報告の内容については、今後、新しい情報の入手等により、修正されることがあり得る。

また、本調査は、本件航空事故に関し、運輸安全委員会設置法及び国際民間航空条約第13附属書に従い、運輸安全委員会により、航空事故及び事故に伴い発生した被害の原因を究明し、事故等の防止及び被害の軽減に寄与することを目的として行われているものであり、本事故の責任を問うために行われているものではない。

1. 航空事故の概要

オリエンタルエアブリッジ株式会社所属ボンバルディア式DHC-8-402型JA845Aは、令和2年10月23日（金）09時25分に福江空港へ着陸した際、機体後部下面を滑走路へ接触させ、機体を損傷した。

2. 調査の概要

運輸安全委員会は、航空事故として通報を受けて本事故の調査を担当する主管調査官ほか2名の航空事故調査官を指名した。本調査には、事故機の設計・製造国であるカナダの代表及び顧問が参加している。

現時点までに、関係者からの口述聴取、機体調査等を実施した。

3. 判明している主な事実情報

(1) 飛行の経過

同機は、機長ほか乗務員3名、乗客50名、計54名が搭乗して同社の定期93便として福岡空港を離陸し、目的地である福江空港へ09時25分着陸した。

同機では、接地後に機体後部下面が滑走路に接触したことを示す警告灯が点灯し、駐機後の機体点検により、機体の損傷が確認された。

(2) 死傷者

なし

(3) 航空機の損壊

中破

機体後部下面の外板に亀裂を含む擦過痕があり、同部位内部の構造部材の一部が損傷及び変形していた。

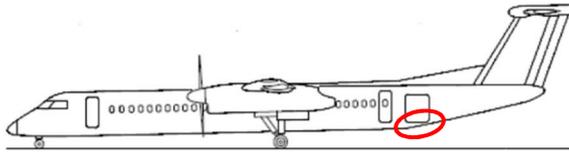


図1 機体の損傷位置

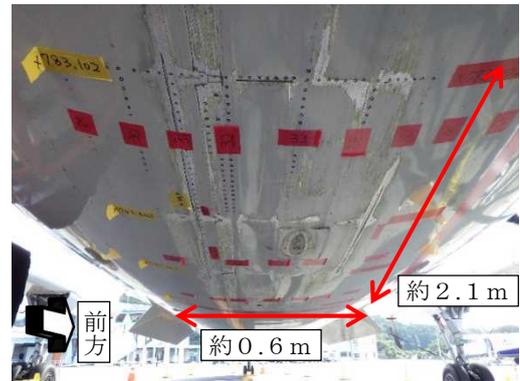


図2 損傷状況

(4) 気象

福江空港の定時飛行場実況気象通報式 (METAR)

09時00分 風向 340°、風速 18kt、最大瞬間風速 31kt、
風向変動 310°～010°、卓越視程 10km 以上、
雲 雲量 1/8 雲形 積雲 雲底の高さ 3,000ft、
雲量 3/8 雲形 積雲 雲底の高さ 3,500ft、
気温 15℃、露点温度 7℃、
高度計規制値 (QNH) 29.92 inHg

4. 今後の調査

本事故の原因の究明及び再発防止策の検討のため、これまでの調査で得られた情報を基に、進入着陸時の同機の挙動の飛行解析など、更なる事実確認や分析を行う必要がある。

運輸安全委員会は、引き続き分析等によって得られた結果を踏まえて、本航空事故の原因等調査を進める。また、原因関係者からの意見聴取及び調査参加国への意見照会を行う。